

聾教師・多田眞佐雄の生涯

新潟県長岡市 佐藤 聖

長年にわたって「横尾義智」を研究してきたが、発見したことが少なくなかった。長岡盲啞学校と東京盲啞学校の間は、関係が大変深かった。後述する。多田眞佐雄氏は、設立したばかりの長岡盲啞学校に赴任した聾教師だった。しかし、残念ながら「多田眞佐雄」というろう者を知る先輩が少なくなっている。その史実をあらゆる面から分析してみたので、中間報告の形で発表する。

多田眞佐雄の誕生

明治20(1887)年3月24日生。県会議員を務めていた多田俊造の子息。

東京盲啞学校入学

入学年不明。明治31(1898)年前後ではないかと推測できる。上京して官立東京盲啞学校(現在の筑波大学附属聾学校)に入学した。

当時は、上野・長岡間の鉄道が開通されていなかった。どうやって上京したのか、関心がある。

明治36(1903)年に尋常科を卒業し、図画科を経て師範科へと進んだ。

<上野・長岡間の鉄道の変遷>

明治26(1893)年、上野-高崎-長野-直江津 開通。

明治32(1899)年、上野-直江津-長岡 開通。

明治38(1905)年、上野-新潟間直通列車運転開始。

昭和6(1931)年、上越線開通。

昭和57(1982)年、上越新幹線開通。(大宮-新潟)

昭和60(1985)年、上越新幹線開通。(上野-新潟)

小西信八と多田眞佐雄

小西信八は、官立東京盲啞学校校長。古志郡高山村(現在の新潟県長岡市高島町)出身。

多田は、明治37(1904)年、町会議員の金子徳十郎(後ほど、長岡聾啞学校創立者となる。)の来校を機に、学生ながら、自ら、長岡盲啞学校設立運動に協力した。夏季休暇などで帰省する傍ら、小西信八と共に町内有志の前で、ろう教育の講演や実演をした。

多田眞佐雄と横尾義智

横尾は、多田の後輩であり、同郷だった。後年、一緒に活動するようになった。※横尾は日本聾啞協会

専務理事、小黒村村長。

多田眞佐雄と金子進太郎

金子が東京盲啞学校入学で上京する前に、長岡で会っていた記録が残っている。金子は、多田の後輩であり、同郷だった。後年、一緒に働くようになった。※金子進太郎は長岡聾啞学校勤務。

当時の東京盲啞学校在学生状況

「長岡教育史料」に、「東京、神奈川県に次いで、新潟県より15名程在学している。」と載せてある。その当時、近くに聾啞者が学べる場所を探すとしたら、東京盲啞学校しかない理由からでしょうか？

ついに盲啞学校開校

小西信八の勧告を受けた末、決心した金子徳十郎は、長岡盲啞学校創立に尽力した。

明治38(1905)年3月10日に県より認可され、4月15日、授業が開始されました。※金子徳十郎は金子進太郎の父。

長岡盲啞学校に赴任

多田は、明治39(1906)年5月1日、長岡盲啞学校に奉職。普通科を担当する。

大正5(1916)年4月21日、長岡盲啞学校退職。

広島聾啞学校へ

広島聾啞学校は大正3(1914)年に創立された。

多田は、大正5(1916)年5月10日、私立広島聾啞学校に転任。

大正10(1921)年4月1日、広島県立盲啞学校と改称。

大正12(1923)年10月5日まで在任。

福岡盲啞学校へ

福岡盲啞学校は明治 43(1910)年に創立された。

多田は、大正 12(1923)年、福岡盲啞学校に転任。

大正 13(1924)年 4 月に福岡県立福岡盲啞学校と改称。

校長・吉村誠が交通事故で逝去。

大正 13(1924)年 12 月 20 日、福岡県立南吉富実業女

学校長の渡辺一郎が 4 代校長として就任。

大正 14(1925)年、口話教育採用を決断した。

<全国各地の口話教育普及>

大正 9 (1920)年、名古屋、日本。

大正 13(1924)年、広島。

大正 14(1925)年、福岡、長岡、東京。

帰郷

多田は、昭和 5 (1930)年 3 月 31 日、長岡聾啞学校に

転任。普通科を担当する。

日本聾啞協会第 7 回総会開催

昭和 7 (1932)年に社団法人日本聾啞協会主催の全国聾啞大会が長岡市にて開催された。多田は、その運

<参考文献>

聾啞年鑑

聾啞界

聾啞の光

聾啞教育

東京聾啞学校六十年史

東京聾啞学校一覧

筑波大学附属聾学校同窓会創立 1 0 5 周年記念同窓会名簿

長岡市史

長岡教育史料

ふるさと長岡の人びと

明治四十四年度私立長岡盲啞学校概覧

我が校経営の概要 新潟県立長岡聾啞学校

県立福岡聾学校 創立五十周年記念誌

五十年史 広島県立広島ろう学校

営に関わった。会場は長岡市公会堂であった。昭和の初期の頃、全国に誇る文化施設といわれる程の大規模な建物であった。

多田は、日本聾啞協会長岡部会の役員として活躍する。

長岡聾啞学校退職

退職した日は不明。心当たりのあるような資料がまだ見つかっていない。

晩年の多田眞佐雄

どんな生活を送っていたか、没年月日、墓の現在位置は不明。今後、調査を続けたい。

今後の課題

ネットワークを築きながら、資料収集に力を入れたい。情報交換を図りたい。全国各地に資料が散逸しているし、データ不足が目立っているので、謎がまだ残っている。